
ロシア語教育研究の動き2011

—日本ロシア語教育研究会の活動を中心に—

小 林 潔

日本ロシア語教育研究会は決して大きな組織ではないが、全国各地の大学・高専・高校等のロシア語教師および大学院生の集まりで、メンバーの属性も専任・非常勤、ロシア語ネイティブそして日本人講師と様々であり、定期的にイベントを企画し研修の機会を設けている。筆者は2010年12月から11年12月まで事務局をつとめた。

2011年度は以下の3つの大きな集まりがあった。これは、研究会前代表の林田理恵教授（大阪大学）を研究代表者とする科研費企画「大学間、高等学校—大学間ロシア語教育ネットワークの確立」（基盤B、2011-2015年度）とも密接に関わっている。本学堤教授および筆者もこの企画の研究分担者である。

1：サマーセミナー2011「ことば力・つける・はかる」。8月17-18日に富山県の立山山麓温泉「森の雫」にて泊まりこみで行ったもので、内容は以下の通りである。

講演1：野村和宏（神戸市外国語大学）「外国語授業の活性化をめざして—英語教育からロシア語教育へ活かすもの—」

講演2：カザケーヴィチ・マルガリータ、林田理恵（大阪大学）「CEFR基準ロシア語スピーキング、ライティング評価法」

野村講演は、氏自身の実践報告であると同時に教員どうしの研修の意義を再確認するものであった。カザケーヴィチ・林田講演はむしろ研修というべきもので、ロシア教育省認定ロシア語検定試験について、受験者の答案例をもとに出席者も自らの採点案を作り検討し、スピーキングとライティングという評価が困難な領域の取り扱い方を学んだ。

2：日本ロシア文学会2011年度総会・研究発表会
プレシンポジウム「ロシア語発『外国語教育連携の時代へ—生涯教育から外国語教育を考える—』」。
10月7日に慶應義塾日吉キャンパスにて開催（共催：中国語教育学会、日本フランス語教育学会、日本独文学会ドイツ語教育部会、日本ロシア語教育研究会）。（同時にパネル展示「大学でのロシア語教育の今を語ろう—情報交換ラウンジ "K O Y O"—」も行われ、神奈川大学を含む各大学でのロシア語教育の紹介がなされた。各校の履修形態や教材、留学・海外研修などの企画を示し情報交換と経験交流をはかったものである。）

プレシンポでは、ロシア語現場報告として加藤純子（関西大学・大阪大学）、熊野谷葉子（慶應義塾）、竹内敦子（関東国際高校）、柳町裕子（新潟県立大学）、依田幸子（北海道古平高校）が登壇したほか、筆者も報告を行った。続けて、パネリスト報告として境一三（独語：慶應義塾）、大木充（仏語：京都大学）、跡部智（英語：慶應義塾）、古川裕（中国語：大阪大学）が登壇した。司会は白山利信（露語：筑波大学）および林田教授である。それぞれの教育機関でそれぞれのやり方で言語教育に関わっている者たちの協働の一歩として有意義な企画であった。

3：ロシア語教育研究集会・総会 2011。12月4日於東京外国語大学本郷サテライト。研究会集会と同時に林田科研の報告会も兼ねるものであった。研究報告は4本で以下の通り。

高木美菜子「ロシア語教材例文データベース作成における教育現場のための検索語と索引」

三浦由香利（神戸大学）「文法学習を運用練習に繋げる試み—動詞変化形提示ツールを利用して—」

加藤純子（関西大学・大阪大学）「仕事と生活に関する対話と記述—大阪大学マルチメディア教材における交流の状況設定—」

須佐多恵（大阪大学）「フィンランドにおけるロシア語教育の現状」

高木、三浦、加藤報告はITを活用した教材・教室活動についてである。須佐報告は、本学堤教授、クロチコフ氏（駒澤大学）、筆者とともに2011年9月に行ったヘルシンキ訪問に基づく。

林田科研では「TRKIとロシア語能力検定とを用いた各教育機関の現状把握および両試験の比較」と題して、ロシア教育省認定ロシア語検定試験（ТРКИ）と日本国内の検定試験との比較を行った。それぞれの教育現場で受講生に二つの試験に取り組んでもらい、その結果を分析したものである。当日不参加の報告者も含めて高校・高専・大

学の13の教育機関での結果が報告された。各機関におけるカリキュラムとの関連の考察、試験そのものの内容比較など今後の研究につながる企画であった（なお、学生の個人情報が絡むこうした題材の取り扱いに注意を要することは研究会でも既に認識されており、然るべき配慮がなされる）。生涯教育を念頭に各教育機関を通じて教育・学習を「つづける」・「つなげる」ことを目指し、それぞれの現場の問題点を明らかにし、将来的にはロシア語人材の「入口」「出口」をも視野に入れてロシア語教育を考えていこうというのである。

目前の学生を大事にすることは言うまでもないが、将来を目指すことも必要である。他の言語の教育研究に比べれば遅れをとってはいるがロシア語に関しても教育研究は盛り上がりを見せはじめた。2012年度は9月23日（日）に「ロシア語母語話者家庭の子供たちにおける母語継承教育」（仮題）をテーマとしたセミナーが、また12月2日に研究集会が開催される予定である。
